

# 令和3年度 調理師専門学校事業報告

## 1. 教育活動の基本方針

### ①各部局の連携と組織の強化

⇒やよい幼・保との連携は図れなかったが、その他の部局とは連携は図れた。

### ②経営安定化への取組み

#### 【財政の健全化】

⇒法人本部が責任を持って経営安定化に向けて鋭意努力している。まだ、不安定な財政基盤ではあるが教職員全体で一致協力する体制である。

#### 【認知度の向上】

⇒コロナ禍でも、「第59回 技能五輪全国大会 西洋料理部門」に於いて、2年次生 青木遥が銅賞を受賞した。

盛岡市主催「シェフのたまごコンテスト」に於いて、グランプリを受賞した作品が広くメディアで紹介された。

### ③特別強化事業

⇒長期委託訓練では、2名の受講生を受け入れた。

⇒学校案内・募集要項の刷新に着手した。(令和5年度生向け)

⇒オープンキャンパス開催にあたっては、衛生管理を徹底し実施した。また、オンラインでの学校説明も実施した。

⇒教員研修に於いては、オンライン研修等を活用した。

⇒収益事業に於いては、毎回好評だった。

### ④設備の維持・管理

- ・HACCPの導入に向け、調理実習室の衛生管理および生徒に対しても授業等で指導強化を心掛ける。

- ・実習室の調理機器のメンテナンスを定期的に行う。

⇒調理実習室の衛生管理は日頃より徹底を重視している。

⇒調理設備の破損修理や排水溝の清掃等を業者もしくは教職員で行った。

### ⑤新事業の評価・検証を踏まえ「将来構想R3」の構築に向けての取組みを開始する。(収益事業も含む)

- ・委託訓練事業(長期高度人材育成コース)の公募に積極的に取り組んでいく。

- ・本校独自の料理コンテストを実施し、常に本校の情報を発信し、広報活動(企業・マスコミ他)に繋げていく。

- ・実習設備の積極的な活用とPR方法(HP・SNS・ポスター・チラシなど)を検証し、今後の事業計画に活用する。

- ・教職員研修の評価を行い、継続事業として行っていく。

⇒本校主催の料理コンテストは、現状を勘案し書類審査のみで実施した。(応募総数107通)

### ⑥生徒支援の充実

- ・コロナ禍における、衛生指導ならびに心のケアを充実させる。

### ⑦学園理念と教育方針の周知徹底

⇒学園理念と教育方針は、入学前のオリエンテーションから生徒たちに指導している。

また、クラス運営にも反映されている。

### ⑧特別教育活動

⇒学外研修に於いては、内容を変更し実施した。また、生徒の満足度を下げないために、授業内容を工夫して実施した。

⇒部活動ならびに同好会は実施せず。ただし、トレーニングルームの活用は換気等を十分に行いながら許可した。

## 2. 教育活動重点計画

### 【教務】

#### ①教育課程

⇒新しく「コミュニケーション技法」という授業を組み入れ、全員がコミュニケーション検定

を受けた。結果は、21名合格だった。

⇒就職試験対策として講師を招聘し、実施した。基礎学力の向上と応用問題の傾向と対策に役立てた。

⇒教務全般を担える育成を重点的に行った。着実に結果に結びついている。

⇒教員間でティームティーチングを行い、クラス運営や授業に反映させた。

## ②授業及び学習活動

⇒理解力が著しく低い生徒に対しては、繰り返し小テストを実施した。また、実習においても同様である。

## 【研修・研究】

⇒オンライン等で研修に臨ませた。研修後は、復命書等で周知させた。

## 【生徒指導】

### ①生活指導

⇒生活指導全般については、教員全員で対応した。情報共有を常とし、問題のある生徒については、個人面談や保護者と連絡をとりあい解決方法を見出してきた。

### ②就職指導

⇒1年次生においては、調理校外実習ができず校内実習に置き換えた。

2年次生においては、就職を希望する生徒全員が内定をいただいた。

⇒コミュニケーション技法の授業内で、就職試験対策、面接対策等を行った。また、授業外でも作文指導や面接練習に立ち会い指導を行った。

## 【学校行事】

⇒菜園祭は開催できなかった。代替として、2年次生は食育推進全国大会のレシピ考案とシェフのたまごコンテストのレシピ考案を行い、優秀な成績で表彰された。メディアにも広く報道された。

⇒交換授業については、衛生管理を徹底させ時間短縮で実施することができた。

## 【教科外活動】

⇒学外研修は、くずまき高原牧場において日帰り研修を実施した。農畜産の仕事を理解することができた。

⇒スーツ登校日を設けることによって、身だしなみや社会人としての自覚が身についている。

## 【実習】

⇒2年次生の実習のテーブルマナー(日本・西洋・中国)を中止し、代替として盛岡ターミナルビル株式会社から講師を招聘し、特別実習を行った。

## 【ボランティア活動】

⇒農林水産省主催「第16回 食育推進全国大会 in いわて」に県産食材を使用したレシピ提供を行った。岩手県HP内で紹介された。

## 3. 広報活動重点計画

●全学科の広報活動内容の把握、オープンキャンパス開催時期ならびに内容、募集要項や高校訪問日程等を各科で綿密に打ち合わせ効果的な広報活動を実践していく。

⇒様々な制限を受けながらも、開催されたオープンキャンパスだった。参加人数も例年よりも増して減少に追い込まれた。

⇒高校訪問に於いては、アポイントを取りながら行ける範囲内で訪問を行った。

### ●オープンキャンパスについて

⇒オープンキャンパスについては、参加者の減少に伴い実施されない日もあった。しかし、オンライン説明会の申し込みもあり実績を積みつつある。

### ●SNSの活用について

⇒従来のSNSの他、動画配信も取り入れ発信した。

### ●DM・チラシの有効利用 (学園本部と連動)

⇒DMやチラシは計画的に配布できた。

⇒テレビ、ラジオ等の活用は予算の都合上、実施できず。

### ●ショウウィンドウの有効活用

⇒効果的な演出を取り入れ、広くPRができた。